

自閉スペクトラム症のある不登校生徒への コンバインド・セラピーの活用プロセス

—個人臨床家によるグループ活動の導入と展開—

兵庫教育大学

永山 智之

NAGAYAMA Tomoyuki

【論文抄録】

本研究では、自閉スペクトラム症のある不登校生徒に同一セラピストが個人療法とグループ活動を併用する形態のコンバインド・セラピーを行う際に個人臨床家が双方の治療構造の連関を活用するプロセスを明らかにし、二つの治療構造の使い方や寄与しうる点、留意点の共通性を見出すことを目的とした。本アプローチの経験のある臨床心理士のうち、自閉スペクトラム症のケース経験を報告した7名のデータに関して、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて分析した。その結果、セラピストがクライアントを個人療法とグループ活動の両場面から多面的に捉えながら双方の境界と相互作用を活用していくなかで、クライアントに「内」と「外」の区別が生じることを体験するというプロセスが明らかとなった。ここからは、自閉スペクトラム症のあるクライアントに「内面」ができてくることに寄与しうるものがうかがえた。二つの治療構造をいかに使い分け、双方の影響を加味しながら活用するかが留意点となろう。

2022年8月受理